



株主の皆様へ

2013年3月期
決算報告

2012年4月1日～2013年3月31日

アルミニウム需要の回復が期待されるなか
経営統合やグローバル供給体制の強化により
世界市場での競争力を高めていきます。

代表取締役社長 岡田 満



株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2013年3月期の当社グループ業績および今後の見通しについて、代表の岡田からお答えいたします。

Q 当期の事業環境ならびに業績はいかがでしたか？

A 世界経済の減速を受け、アルミニウム圧延品の需要が減少したため、残念ながら減収減益となりました。

当期の世界経済は、欧州の財政危機が続くなか、新興国の成長にも陰りが見られるなど、減速傾向が広がりました。わが国経済も、東日本大震災からの復興需要が見られたものの、海外経済の減速や内需の縮小を受け、景気の低迷が続きました。年末の政権交代以降は、株高や円安の進行により明るい兆しが見られるものの、实体经济への浸透には、なお時間を要する状況です。

当社グループが属するアルミニウム圧延業界の需要を

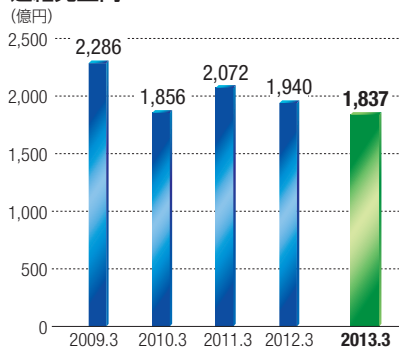
見ると、自動車関連は堅調であったものの、主力となる飲料用缶材は横ばい、箔地など電子機器分野は低調に推移し、全体では前期比で減少となりました。

こうした環境のなか、当社グループの売上数量は、LNG（液化天然ガス）船向け厚板や建設材の需要は増加したものの、飲料用缶材の伸び悩みや箔地の減少に加え、他の分野でも回復が進まず、前期比で約2%の減少となりました。加えて、地金単価の下落の影響もあり、当期の売上高は1,837億円（前期比5.3%減）となりました。

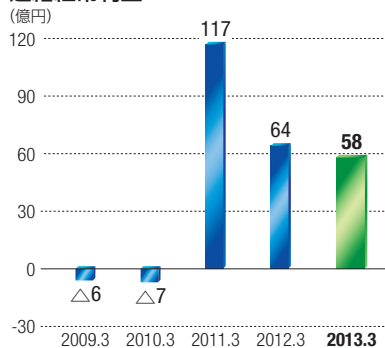
また、営業利益は53億円（前期比16.1%減）となりましたが、その一方で、板圧延事業の構造改革を含めたコスト改善施策を進め、前期比で11億円増の収益改善効果を創出しました。これらにより、経常利益は58億円（前期比9.2%減）、当期純利益は31億円（前期比11.1%減）となりました。

このように厳しい状況ではありますが、株主の皆様に対する期末配当は予定通り3円とし、中間配当3円とあわせて、前期と同額の年間6円としました。

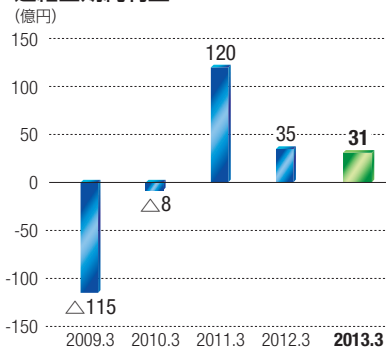
連結売上高



連結経常利益



連結当期純利益



Q 今後の方向性について教えてください。

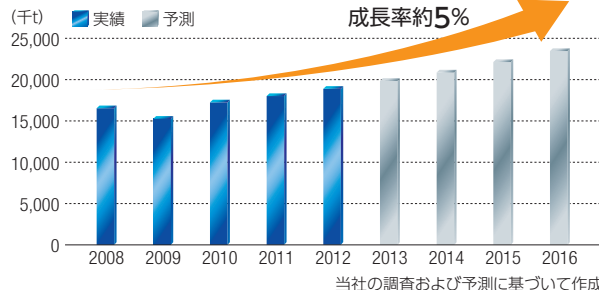
A 回復局面を迎える国内需要を取り込むとともに、増え続ける海外需要に対応するためのグローバル供給体制の強化を継続します。

来期の市場環境については、現在、わが国で急速に進行している円安によって、国内生産品の輸出競争力が回復するとともに、海外材の輸入圧力も軽減されるなど、当社グループにとってプラスの影響が期待できます。

また、主力品種であるLNG船向け厚板については、原発事故以降のLNG需要の増加に加えて、米国エネルギー省が発表した日本へのシェールガスの輸出解禁が好影響を及ぼすと期待しています。具体的には、2015年度前後からLNG船建造数の大幅増加が計画されており、それに伴って当社の受注増加が見込まれます。

このように、回復の兆しが見えてきた国内需要を積極的に

世界のアルミニウム板圧延品需要



取り込む一方で、より大きな成長が見込まれる海外需要に対応するため、これまで注力してきたグローバル供給体制の強化を継続していきます。

なかでも、タイに建設中の新工場は、日本のアルミニウム圧延メーカーとしては初となる、海外での板圧延一貫生産工場として、「高品質」と「コスト競争力」の両立によって他社を圧倒する競争力を発揮することを目指します。

現在、第1期となる冷間圧延工程以降について、建屋などの工事が順調に推移しており、2014年1月に操業ととも

拡大するマーケットに対応するタイの本格的アルミニウム圧延工場



完成イメージ図

に量産開始を予定しています。その後も引き続き第2期の建設を進め、2015年3月には年間18万トンの生産能力を持つ一貫生産ラインが稼働する計画です。

当社グループは近年、拡大するアルミニウムマーケットに対して着実に製品を供給するために、インドネシア、中国、ベトナムなどの海外拠点においても生産能力の増強を進めてきました。こうした体制にタイ新工場を加えることで、着実に成長路線を確立していく考えです。

Q 来期の業績見通しを教えてください。

A 2013年10月の経営統合を控えて、上半期のみ見通しとなりますが、当期上半期と同程度の利益を見込みます。

2012年8月に発表しましたように、当社は2013年10月1日、住友軽金属工業株式会社との経営統合を予定しています(詳細はP5-6をご参照)。このため、来期の業績

としては上半期のみ見通しを公表し、通期業績予想については経営統合後に検討して、公表する予定です。

来期上半期の業績見通しについては、先述のように、円安の影響で主要品種の競争力が回復してくると考えられますが、本格的な回復は下半期以降と想定し、利益水準としては当期上半期と同程度を見込んでいます。

これらにより、来期上半期の売上高は955億円(前年同期比2.3%増)、営業利益は29億円(前年同期比1.6%増)、経常利益は33億円(前年同期比5.6%増)、当期純利益は18億円(前年同期比0.8%減)を見込んでいます。

なお、来期上半期の中間配当につきましても、引き続き当期上半期と同額の3円を予定しています。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 岡田 満

タイ新工場スケジュール



建屋の建設が進む現地

10月1日から、住友軽金属工業(株)との経営統合による新会社がスタートします。

古河スカイと住友軽金属工業(株)は、2012年8月29日に統合基本合意書を締結し、両社の株主総会での承認を前提として、

2013年10月1日の経営統合に向けた協議を進めています。

統合により事業基盤を大幅に強化するのはもちろん、技術力や開発力、品質対応力など、幅広い側面でシナジーを発揮し、「世界的競争力を持つアルミニウムメジャー会社」を目指します。

統合によって誕生する新会社に対しても、

変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 新社名およびロゴマークを決定

統合新会社の社名は、日本初のグローバルメジャーグループとして、世界のアルミニウム業界を牽引していく存在となるべく、United Aluminum Company of Japanの頭文字をとって、株式会社UACJ(英文社名:UACJ Corporation)と決定しました。

新社名ロゴ



■ グローバルなアルミニウム圧延メーカーへ

経営統合によって、アルミニウム板製品の年間生産能力は100万トン超という世界第3位の規模となり、アルミニウムメジャー会社とグローバル市場で戦えるだけのコスト競争力を獲得することができます。加えて、板事業、押出事業、加工品事業ともに、従来以上に地域的な広がりを持つこととなります。この体制のもと、各事業を点から線へ、線から面へと展開させることで、グローバル供給体制をさらに強化し、「世界的競争力を持つアルミニウムメジャー会社」を目指します。

統合後のグローバル体制

■ 古河スカイ(グループ) ■ 住友軽金属工業(グループ)

(注)板、押出、鋳鍛、加工品事業の主な工場、関連会社を掲載しています。



統合に向けた進捗と今後のスケジュール

2012年8月29日	統合基本合意書の締結
2012年9月28日	公正取引委員会 第1次審査終了
2013年2月21日	公正取引委員会 第2次審査終了 (合併の認可)
2013年4月26日	合併契約締結
2013年6月	両社、定時株主総会にて合併契約の承認
2013年10月1日	合併期日(統合期日)

統合概要

商号	株式会社UACJ (英文社名 UACJ Corporation)
代表者	代表取締役会長 山内 重徳 (現 住友軽金属工業(株) 代表取締役社長) 代表取締役社長 岡田 満 (現 古河スカイ(株) 代表取締役社長)
本店所在地	東京都千代田区大手町一丁目7番2号 東京サンケイビル
合併効力発生日 (統合期日)	2013年10月1日(予定)
合併比率	古河スカイ=1 住友軽金属工業=0.346 (住友軽金属工業1株に古河スカイ0.346株を割当)



©Mitsubishi Aircraft Corporation

暮らしの中の
古河スカイ

第4回

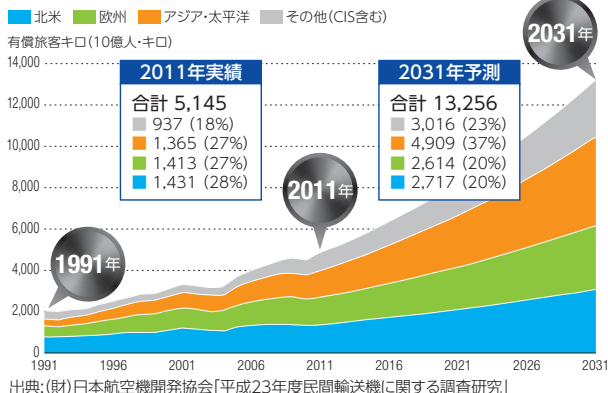
航空機産業の未来とアルミニウム

航空機産業では、軽量かつ強度に優れた機体を実現するために、昭和初期からアルミニウム素材を採用しています。古河スカイは、航空機素材メーカーに求められる厳しい品質規格をクリアし、世界の主要航空機メーカーに信頼性の高い製品を提供しています。

アジアの成長を背景に拡大する航空機市場

米国同時多発テロなどの影響で減少傾向にあった航空旅客数が、近年、飛躍的な経済発展を見せるアジア・太平洋地域に牽引され、急回復しています。引き続きアジアを中心とした市場拡大が見込まれるなか、LCC（格安航空会社）など新規キャリアの参入によって航空機の需要も急増。かつてのピークを上回る伸びを見せています。

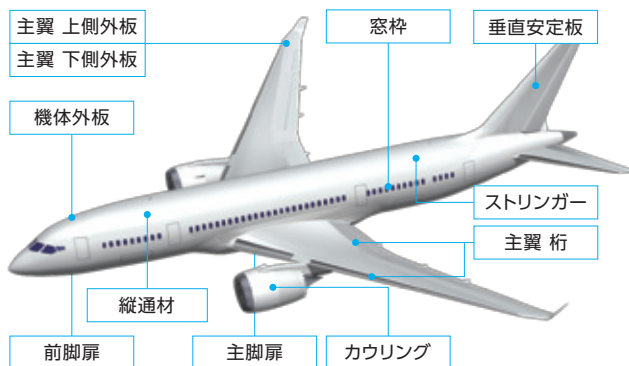
世界の航空旅客予測



航空機の信頼性を支えるアルミニウム

軽くて丈夫なうえに加工しやすいアルミニウムは、航空機の信頼性を支えつつ、軽量化にも寄与する素材として幅広く採用されています。胴体や翼の外板だけでなく、ホイールや窓枠、エンジン内の精密部品まで、用途は多岐にわたっており、たとえばボーイング社「B777」では機体重量の約70%をアルミニウム合金が占めています。

航空機におけるアルミニウムの適用例



参考: (一社)日本アルミニウム協会

認定メーカーとして 高品質なアルミニウム合金を 提供する古河スカイ

航空機分野では、安全性に万全を期すため、使用する材料について厳しい品質規格を規定しており、認定を受けた素材メーカーだけが製造・納入することができます。

古河スカイは、航空機材の世界的品質規格であるAS9100の認証を国内で初めて取得しました。さらに、より高度な技術が求められる特殊工程について、ボーイング社やエアバス社など世界的な航空機メーカーによる認証システムNadcapの認定を、アルミニウムメーカーとして国内で唯一※取得しています。

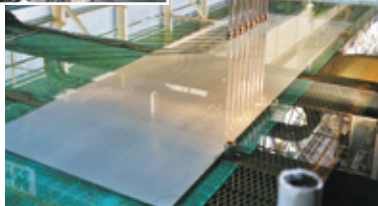
生産体制については、航空機材の主力工場である福井工場には、世界最大級の熱間圧延ラインをはじめ、ストレッチャーや大型焼入炉、超音波探傷器、また小山工場には国内最大級の大型鍛造プレス機を保有するなど、世界有数の設備と技術を備えています。

これらによって、当社は、高い品質要求を満たした製品を生産し、世界の航空機メーカーに供給しています。

※2012年度末現在



歪みのない平坦な
大型厚板の製造を可能にする
国内最大のストレッチャー



わずかなキズも見逃さない
超音波探傷器は
Nadcap認定に不可欠

COLUMN

航空機業界の注目を集める 「MRJ」とは?



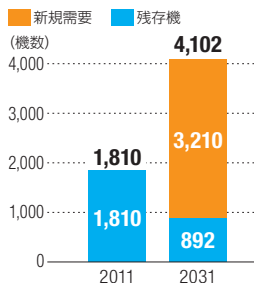
©Mitsubishi Aircraft Corporation

MRJは、三菱航空機(株)が開発する国産初の次世代リージョナルジェット機(RJ)です。RJとは座席数50~100席の小型ジェット機のことです。アジアなどで急成長を遂げているLCCを中心に、大幅な需要拡大が見込まれています。

世界のRJ市場は、これまでカナダとブラジルの2社がほぼ独占していましたが、日本の技術力を結集したMRJの新規参入によって、業界構造が激変すると見られています。実際、MRJはすでに325機(オプション含む)を受注しており、2015年度には量産初号機を納入する予定です。

MRJの胴体や主翼にはアルミニウム合金が使用されており、そこには古河スカイの製品も含まれています。MRJの受注が拡大することで、さらなる需要増が期待できます。

RJ運航機数および需要予測 (60~99席)



MRJ(三菱リージョナル ジェット)概要

MRJ90

機内座席数: 92席
全長: 35.8m
航続距離: 最大3,310km

MRJ70

機内座席数: 78席
全長: 33.4m
航続距離: 最大3,380km

出典: (財)日本航空機開発協会「平成23年度民間輸送機に関する調査研究」

アルミニウムはなぜ軽くて強い？



アルミニウムは、他の金属より「軽くて強い」という特性から航空機材や機械部品、構造用材などに幅広く使用されています。その強さの理由をご紹介します。

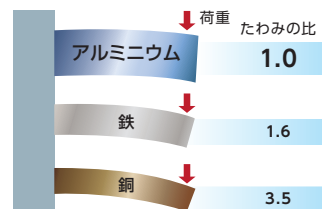
理由1

他の金属に比べて、同じ重さに対して強度が大きい

アルミニウムは、単位重量当たりの強度(比強度)と剛性(比剛性)が大きいという特徴があります。右の図に示したように、異なる金属素材で同じ質量、長さの円柱片を用意した場合、アルミニウムは密度が小さいため、円柱の直径が大きくなります。このため上からの力(荷重)をかけた場合に、他の金属より生じるたわみは小さくなります。

アルミニウムの比強度 (/km)

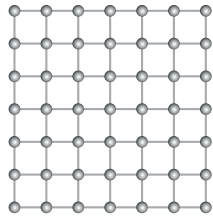
アルミニウム(5083)	11.5
鋼(一般鋼)	5.4
銅(熱間圧延材)	2.7



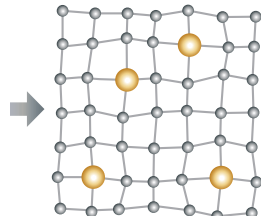
理由2

合金にすることで強くなる

純アルミニウム



アルミニウム合金

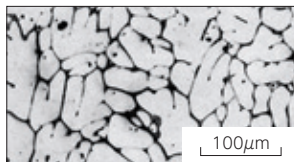


アルミニウムに他の金属元素を添加したものを「アルミニウム合金」と呼びます。合金の内部には、大きさの異なる原子が配置されるため、原子の位置ずれによる変形が生じにくくなり、強度が高まります。

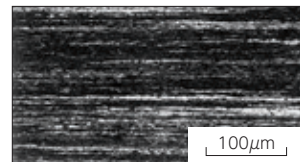
理由3

加工を施すことで強くなる

圧力をかけて薄く引き延ばす「圧延」や、ハンマーなどで叩きながら成形する「鍛造」など、さまざまな加工を施すことで、アルミニウム合金はより強度を増します。加工によって金属内部の組織が細かく分解され、ち密で均一な組織となるため、より強く丈夫な金属に生まれ変わります。



加工前(鋳塊)の組織(引張強さ100MPa)



圧延加工後の組織(引張強さ290MPa)



国内最大級の15,000トン鍛造プレス機

古河スカイには、国内最大級の鍛造プレス機があり、この設備を活かして航空宇宙産業、車両および液晶装置産業向けの大型アルミニウム鍛造品を製造しています。

株主プラザ

株主の皆様とのコミュニケーションの場として、最新のイベント情報やアンケート結果などを報告するコーナーです。

工場見学会について

古河スカイでは、株主様を対象とした工場見学会を2013年5月26日に深谷工場で開催しました。

今年で3回目を迎えたこの見学会は、多くのご応募の中から抽選で選ばれた54名様に参加いただきました。

当日は、工場の主要設備や技術設備、製造工程をご覧いただくとともに、映像・パネル展示などを通じて、当社の高度な技術とアルミニウム市場の広がりをご紹介します。

見学会のアンケート結果では、「工場見学会全体の印象は？」の問いに対し、9割近くの参加者から「満足」との回答をいただきました。今後も、参加された皆様に心から満足いただけるような見学会の実施に努めていきます。

参加者からいただいたコメント(一部抜粋)

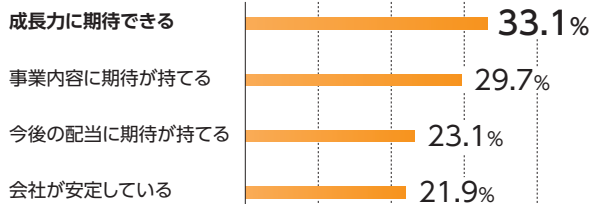
- スケールの大きさ、機械・設備の大きさすべてに圧倒されました。
- 安全面への配慮に感心しました。
- これからも製品の改良に努め、社会貢献をさらに続けてください。



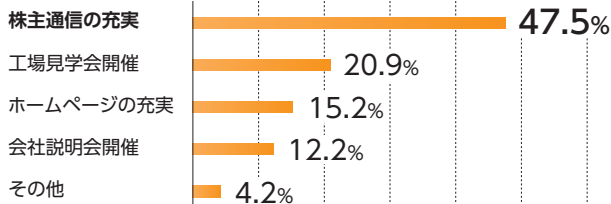
「株主様向けアンケート」の集計結果について

古河スカイでは従来から、株主の皆様とのコミュニケーションを促進させるため、「株主様向けアンケート」を毎年実施しています。2013年3月期上半期報告書に同封したアンケートでは671通ものご回答をいただきました。多くの回答をいただいた「事業内容や成長力への期待」に応えるためにも、事業展開に注力していくのはもちろんのこと、今後のIR活動でも取り上げていきます。

Q1 当社の株式を購入した理由(複数回答あり)



Q2 希望するIR活動の内容(複数回答あり)



損益計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)	当連結会計年度 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
売上高		193,972	183,702
売上原価		171,318	161,233
売上総利益		22,654	22,469
販売費及び一般管理費		16,294	17,130
営業利益		6,360	5,339
営業外収益		1,352	1,906
営業外費用		1,301	1,427
経常利益		6,411	5,819
特別利益		159	12
特別損失		442	257
税金等調整前当期純利益		6,128	5,573
法人税、住民税及び事業税		1,160	1,339
法人税等調整額		1,323	917
少数株主利益		105	171
当期純利益		3,540	3,146

POINT
1

包括利益計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)	当連結会計年度 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益		3,646	3,317
その他の包括利益		△784	4,087
包括利益		2,861	7,405

貸借対照表

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
資産の部			
流動資産		102,670	95,561
固定資産		110,328	122,221
有形固定資産		85,766	94,469
無形固定資産		1,574	1,820
投資その他の資産		22,987	25,932
資産合計		212,998	217,782
負債の部			
流動負債		91,261	90,093
固定負債		50,559	50,390
負債合計		141,819	140,483
純資産の部			
株主資本		71,978	73,964
その他の包括利益累計額		△1,394	2,519
少数株主持分		596	816
純資産合計		71,179	77,299
負債純資産合計		212,998	217,782

POINT
2

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度	当連結会計年度
		(2011年4月1日～ 2012年3月31日)	(2012年4月1日～ 2013年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		17,609	12,766
投資活動によるキャッシュ・フロー		△21,083	△15,198
財務活動によるキャッシュ・フロー		△7,526	△451
現金及び現金同等物に係る換算差額		△29	512
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)		△11,029	△2,371
現金及び現金同等物の期首残高		20,115	11,339
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)		2,253	54
現金及び現金同等物の期末残高		11,339	9,023

POINT
1

営業外収益の増加

持分法投資利益の拡大によって営業外収益が増加しました。

POINT
2

負債の減少

タイ新工場への設備投資には手元運用資金を活用することで、有利子負債残高の増加を抑えました。

株主資本等変動計算書 (2012年4月1日～2013年3月31日)

単位:百万円(四捨五入)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
2012年4月1日残高	16,528	35,184	20,267	△2	71,978	180	△423	△1,151	△1,394	596	71,179
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△1,363		△1,363						△1,363
当期純利益			3,146		3,146						3,146
自己株式の取得				△0	△0						△0
連結範囲の変動			203		203						203
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						60	448	3,405	3,913	220	4,133
連結会計年度中の変動額合計			1,987	△0	1,987	60	448	3,405	3,913	220	6,120
2013年3月31日残高	16,528	35,184	22,254	△3	73,964	240	25	2,253	2,519	816	77,299

■ 会社概要 (2013年3月31日現在)

社名	古河スカイ株式会社
ホームページ	http://www.furukawa-sky.co.jp/
事業内容	アルミニウム製品および アルミニウム合金製品の 製造、加工、販売
設立	2003年10月
資本金	165億2,840万円
従業員数	3,851名(連結)、1,938名(単体)
主要な営業所	本 社 東京都千代田区
および工場	営業所 関西支社(大阪市北区) 中部支社(名古屋市東区) 九州支社(福岡市博多区) 工 場 福井工場、深谷工場、 日光工場、小山工場 研究所 技術研究所(埼玉県深谷市)

■ 役員

代表取締役社長	岡田 満
取締役兼専務執行役員	楠本 昭彦
取締役兼常務執行役員	中野 隆喜 田中 清 土屋 博範
常勤監査役	石原 宣宏
監査役(社外、非常勤)	浅野 明 佐藤 哲哉 大前 浩三
常務執行役員	長谷川 久
執行役員	福井 裕之 新堀 勝康 山口 明則 田口 正高

株式の状況 (2013年3月31日現在)

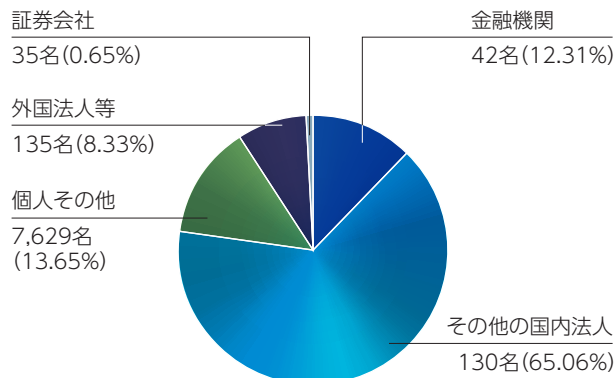
発行可能株式総数 400,000,000株
 発行済株式総数 227,100,000株
 (自己株式12,955株を含む)
 株主数 7,971名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
古河電気工業株式会社	120,365	53.00
新日鐵住金株式会社	18,700	8.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,952	2.62
古河スカイ従業員持株会	4,866	2.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,620	2.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,181	1.40
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	2,783	1.22
丸紅株式会社	2,271	1.00
三井物産株式会社	2,271	1.00
第一生命保険株式会社特別勘定年金口	1,919	0.84

(注)持株比率は自己株式(12,955株)を控除して計算しています。

所有者別の構成比率(株式数比率)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 / 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.furukawa-sky.co.jp/) (やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続き お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受取方法の 変更など)	お取引の証券会社等になります。	●みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取り扱いします。 (※1) ●みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※2)
未払配当金 のお支払い	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	未払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

- ※1 カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。
 ※2 トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

古河スカイ株式会社

〒101-8970 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX12階
 TEL (03) 5295-3800(代表) FAX (03) 5295-3760
<http://www.furukawa-sky.co.jp/>

古河スカイのウェブサイトが、2012年度も 各評価機関で高評価を獲得しました。

古河スカイのウェブサイトが、日興アイ・アール株式会社の「2012年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、総合ランキング8位、業種別ランキング1位を獲得し、最優秀サイトの1社に選ばれました。総合ランキングは昨年の16位から大幅にアップし、業種別ランキングは2年連続で1位となりました。

また、モーニングスター株式会社の「Gomez IRサイトランキング2013」においても優秀企業:銀賞を獲得し、昨年の銅賞からランクアップすることができました。加えて、大和インベスター・リレーションズ株式会社の「2012年インターネットIR表彰」では、昨年に引き続き優良賞を受賞しました。

今後も、ウェブサイトの内容の充実を図るとともに、スマートフォン向けウェブサイトやfacebookの公式ページも活用しながら、積極的かつわかりやすい情報発信に努めていきます。

パソコン向けウェブサイト
<http://www.furukawa-sky.co.jp/>



スマートフォン向けウェブサイト
<http://www.furukawa-sky.co.jp/sp/>



facebookの公式ページ

